

- ①所属名：介護療養型老人保健施設木の実（かいごりょうようがたろうじんほけんしせつ きのみ）
- ②協会会員番号：1389
- ③氏名：松木 信（まつき まこと）
- ④所属士会：山形県作業療法士会
- ⑤タイトル：石巻支援
- ⑥本文：

宮城県作業療法士会の依頼に基づき 8 月 27 日（土）28 日（日）山形県作業療法士会として、両日ともに 3 名で震災活動支援に行ってきました。当日は仙台から石巻まで通常 1 時間のところ渋滞で 3 時間程度かかるかもしれないということで山形を 5 時に出発しました。渋滞の予測とは裏腹に、仙台からもかなり順調な走行で、石巻に近くなってもほとんど渋滞することもなく、6：30 には現地に到着しました。9 時集合のところあまりにも早く到着したもので、港のほうを見学しようということになり、行ってきました。やはりテレビで見るのとは違い、津波に飲み込まれた自動車が山積みされていたり、瓦礫の山があったり、信号機がまだ復旧していなかったり、地震や津波で倒壊した家はなくなり、墓地のお墓はみな倒され、小学校は真っ黒く焦げただれていました。震災当時はどのような惨劇があったのか測り知れません。さて話は変わって支援のほうですが、どのような支援を行ってきたかといいますと、仮設住宅に入居された方々で、自宅に閉じこもりがちになって活動量が激減し、エコノミークラス症候群の予備軍の方々に対して仮設住宅の集会所で検診を行ったり予防の運動指導を行ったりするので、その事前調査ということで、戸別訪問を行って適応になる方々を検診や運動にお誘いするという内容でした。自宅に上がりこんでお話を聞いたりするとどこも様々な状況で、中には、自分と長男だけが生き残り、嫁と孫 3 人が亡くなってしまったという 80 歳の高齢者の方がおりました。「体を動かさないのはよくないことだということは知っているが、今はそのような気持にはなれない。外に出ると人に話さなければならなくなり、そうすると涙が出て止まらなくなるので今は外にも出ていない。もう少し気持ちが落ち着くまで待ってください。」と言われ何もできませんでした。まずは悲しみを自分のものとして傾聴することの大切さ、そこから生まれてくる一歩にどう私たちは支援できるのか、大変勉強になりました。また機会があれば行ってみたいと思いました。そしてこの 80 歳の高齢者にまたお会いしたいと思いました。震災にあった方々は言葉には言いあらわせない悲しみがあると思いますが、その気持ちを分かってあげながらコミュニケーションをとり、生活の再建に向けてあるいは人生の再スタートに向けて何か支援することができれば幸いだと思いました。